

製品仕様



常用水圧0.15MPaにたえる耐水構造

- ①本体管 SUS304 100A
- ②樹脂製立体網目状構造体 φ80
- ③ネジ込式キャップ ポリアセタール製
- ④保護キャップ ゴム製

設置方法

- ①型枠に墨だしを行います。
- ②逆止弁が機能するように製品を型枠に固定します。
※フランジの固定用穴を利用して型枠に固定
- ③反対側の型枠を設置し同様にフランジを利用して固定します。

注意点！

両フランジ部に生コンクリートのノロ等が入らないように、製品周辺の型枠セパレーターは確実に締め込んで下さい。



設置状況



設置完了

地下水位計測調査孔に関するお問い合わせ先はこちら



株式会社 中大

- 本社 〒060-0009 札幌市中央区北9条西24丁目3-15 中大ビル
(TEL) 011-641-8201 (FAX) 011-611-8478
- 函館支店 〒040-0001 函館市五稜郭町31番8号 五稜郭センタービル2F
(TEL) 0138-30-6090 (FAX) 0138-30-6093
- 旭川支店 〒078-8232 旭川市豊岡2条3丁目1-6
(TEL) 0166-33-4112 (FAX) 0166-33-0629
- 稚内支店 〒097-0001 稚内市末広5丁目5-1 国境ビル2F
(TEL) 0162-34-8600 (FAX) 0162-34-8610
- 仙台支店 〒980-0802 宮城県仙台市青葉区二日町3-10 グランシャリオビル3F
(TEL) 022-713-6101 (FAX) 022-713-6102
- 東京支店 〒105-0004 東京都港区新橋2-16-1 ニュー新橋ビル1038
(TEL) 03-6811-3282



(株) 中大

www.chudai.co.jp

地下水位 計測調査孔



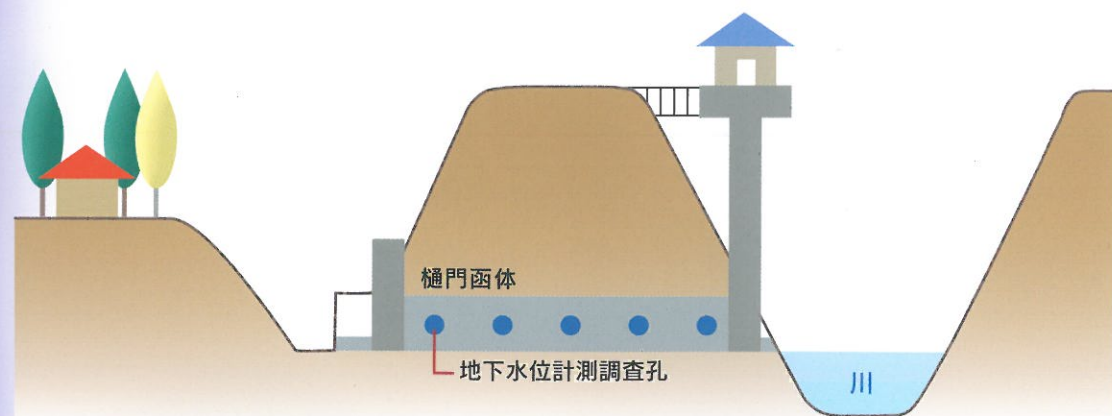
株式会社 中大

調査孔の役割

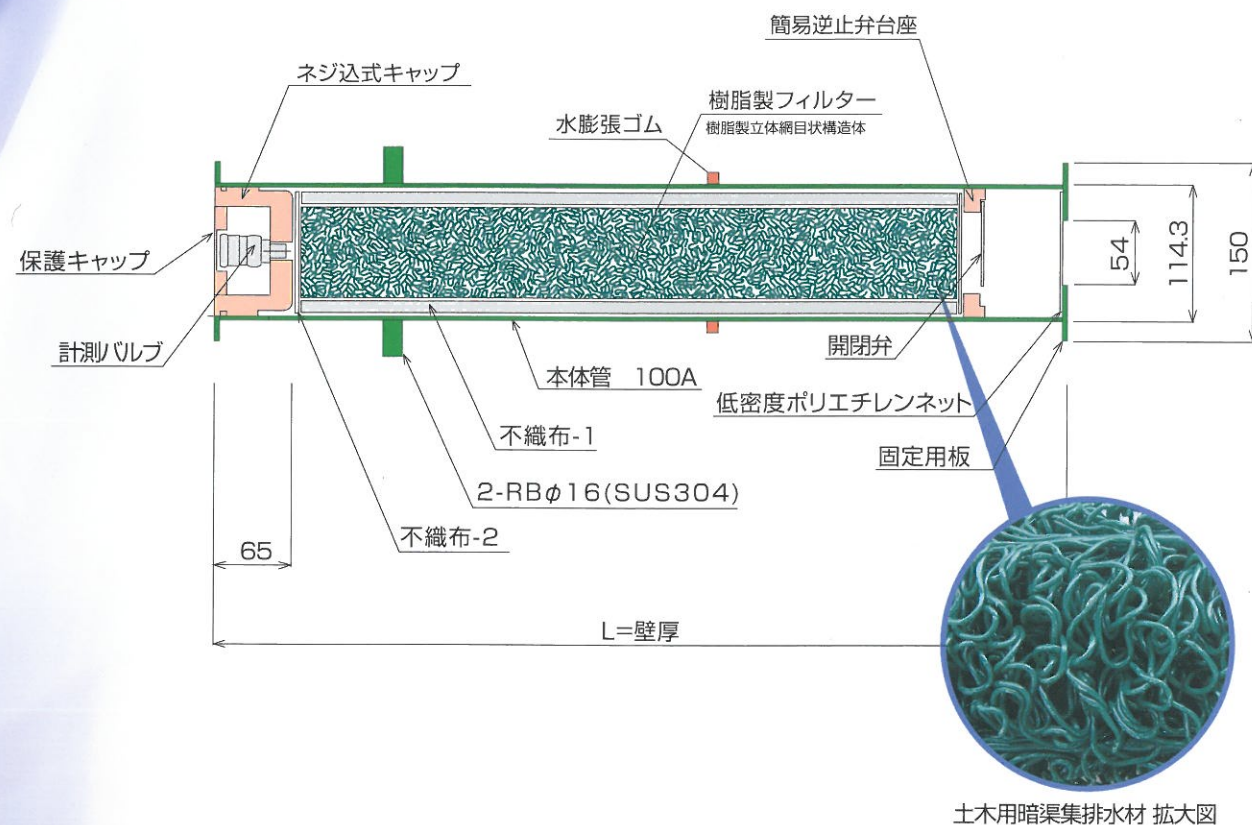
調査孔は、構造物の背面の土の緩みや空洞化の観察・グラウト材注入孔として、構造物の底版や側壁に設置されます。

集中豪雨による水位上昇や地震により堤防盛土に緩みが生じると構造物周辺に空洞が発生する恐れがあります。

水位低下後に空洞の有無を確認し対策を講じることは堤防の安定に保ち堤内の安全確保につながります。

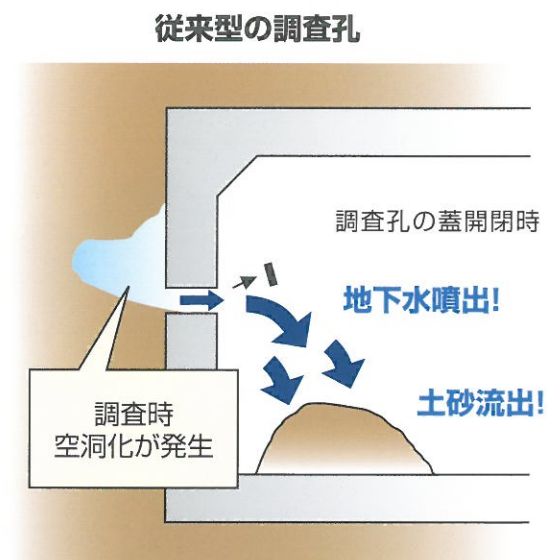


製品構造



従来型調査孔の抱える課題

- 従来の調査孔は、空洞化の確認のために調査孔の蓋を開けた時に、函体外側から地下水が噴出することが多く、それに伴う土砂の流出により空洞化の促進する恐れがあります。
- 地下水とともに土砂が噴出するため、調査員の安全確保が懸念されます。又、調査孔内に土砂が埋まってしまうとグラウト材注入作業が困難となります。



地下水位計測調査孔の特長

- 地下水位の測定
地下水位確認のため、計測バルブに携帯用水圧計測器を取付し函体外側の地下水位を調査することが可能です。
地下水位計測調査孔に別途仕様の間隙水圧計を設置することで洪水時における地下水位の経時変化の計測が可能であり、堤防の安全評価につながります。
- 空洞化調査
空洞化の調査時や空洞化対策のグラウト注入時に簡易逆止弁とフィルター構造により蓋を開けても土砂や地下水の流入が少なく、安全に作業することが出来ます。
- 施工性の向上
取付時の作業性向上のため、型枠固定用のフランジを設けました。コンクリート打設時の圧力に対して脱落することなく堅固に固定することができます。

